

平成26年度 租税教育に関する研究発表要項

名取市立不二が丘小学校

教諭 清野 秀和

1 研究主題

租税への関心を高めるための指導の工夫
～第6学年 総合的な学習の時間「税金について考えよう」の学習を通して～

2 主題設定の理由

租税についての意義や役割を正しく理解していくことは、社会で生きていくためには必要不可欠なことである。また、新聞やテレビによる租税に関するニュースは、ほぼ毎日と言っていいほど報道されており、児童は消費税はもとより、所得税、酒税、ふるさと納税等々多くの租税に関する言葉を見聞きしている。しかしながら、後に述べる児童の事前アンケートから分かる通り、児童の租税に関する興味関心は低く、消費税以外の知識はほとんどない現状である。

租税の仕組みを理解する上で欠かせないのが、国、県、市の予算である。何をするための税金なのか、何にどれくらい使われているのかをある程度理解することで、租税に関する興味関心がより一層高まると考える。

そこで、課題設定、調べ学習、まとめという一連の学習の中で、児童一人一人が租税について考えることは総合的な学習の時間のねらいを達成するのに最適であると考え、本主題を設定した。

※総合的な学習の時間の目標（小学校学習指導要領第5章より）

横断的・総合的な学習や探求的な学習を通して、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探求活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする。

※租税教育の目的（国税庁ホームページより）

次代を担う児童・生徒が、民主主義の根幹である租税の意義や役割を正しく理解し、社会の構成員として税金を納め、その使い道に関心を持ち、さらには納税者として社会や国の在り方を主体的に考えるという自覚を育てる。

3 研究目標

児童が課題を設定し、壁新聞にまとめたり討論会をしたりする活動を通して、租税への関心を高める指導法を探る。

4 研究の方法

- (1) 児童の税に関する実態調査を行う。
- (2) 租税教室を実施し、租税に関して理解を深めさせる。
- (3) 課題別にグループを編成し、壁新聞形式でまとめさせる。
- (4) 税金討論会を行い、租税についての関心を高めさせ学習したことを深めさせる。
- (5) 事後調査を行い、児童の変容をみる。

5 研究の計画

平成26年 9月	実態調査
10月	租税教室 (講師 木村経営管理会計 木村拓也税理士) 実践授業 事後調査 研究のまとめ
11月	研究発表会

6 研究の概要

- (1) 児童の実態 (6年1組 男13名 女19名 計32名)

実態調査の結果は次の通りである。(9月12日実施)

Q1 「税金」という言葉を聞いたことがありますか？ ・ある (32) ・ない (0)
Q2 税金は誰が納めるのでしょうか？ ・国民 (大人も子供も) (22) ・大人だけ (6) ・子供だけ (0) ・納めたい人だけ (0) ・分からない (4)
Q3 税金にはどんな種類があるのでしょうか？ (複数回答) ・消費税 (27) ・所得税 (4) ・たばこ税 (1) ・関税 (1)
Q4 税金はどんなことに使われていると思いますか？ (複数回答) ・教科書 (5) ・公共施設 (4) ・給料 (1) ・仮設住宅 (2) ・学校 (1) ・国会の人 (2)
Q5 税金は必要だと思いますか？ ・必要 (8) ・必要でない (9) ・どちらとも言えない (15)

以上の結果より、税金という言葉は知っているものの、消費税を除いては税金の種類、納税者などの知識はほとんどないと言える。また、税金の使い道についても、一部の児童が若干の知識があるだけで、ほとんどの児童は理解できていない。

税金の必要性については、「必要でない」「どちらとも言えない」と答えている児童が合計22名おり、税金の意義についての理解も十分でないと言える。

(2) 学習計画 (8時間扱い)

次	主 な 内 容	時間
1	・租税教室を行う。(講師 木村経営管理会計 木村拓也税理士) ・資料を基に、税金について学習する。	1 1
2	・一人一人課題を設定し、その課題別にグループを編成し調べる。 (本, インターネット) ・グループごとに壁新聞を作る。(9グループ)	2 3
3	・税金討論会「どの国が一番住みやすいか？」	1

(3) 実践の概要

【第1次】

(1) 租税教室を行う。(10月2日)

(講師 木村経営管理会計 木村拓也税理士)

- ・税金の役割と大切さ
- ・ビデオ「マリンとヤマト 不思議な日曜日」

毎日の暮らしの中で税がどのようなところで使われているのか。

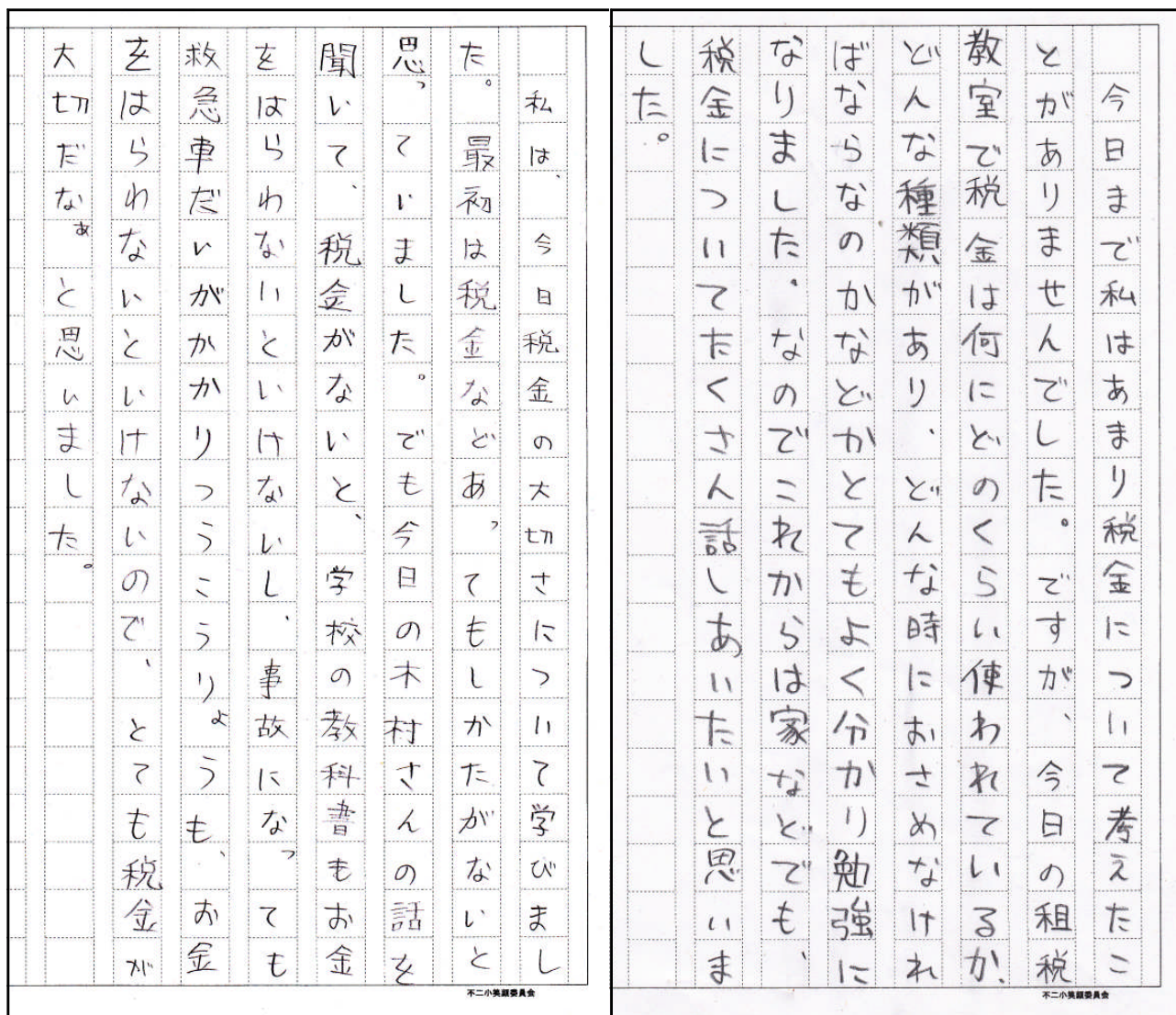


「税金はみんなのために使うお金です」



1億円のレプリカを持ってきて

○租税教室後の児童の感想



【第2次】

(1) 一人一人課題を設定し、その課題別にグループを編成し調べる。(1グループ3～4名)

○児童が設定した課題は次の通りである。

- ①税金の種類 (2グループ)
- ②所得税 (2グループ)
- ③使い道 (2グループ)
- ④税金の歴史 (2グループ)
- ⑤消費税 (1グループ)

○調べた方法

・書籍

(司書の先生の協力をもらい、名取市内の小学校から税金に関する本を17冊借りていただいた)

・インターネット (国税庁HP <https://www.nta.go.jp/index.htm>)

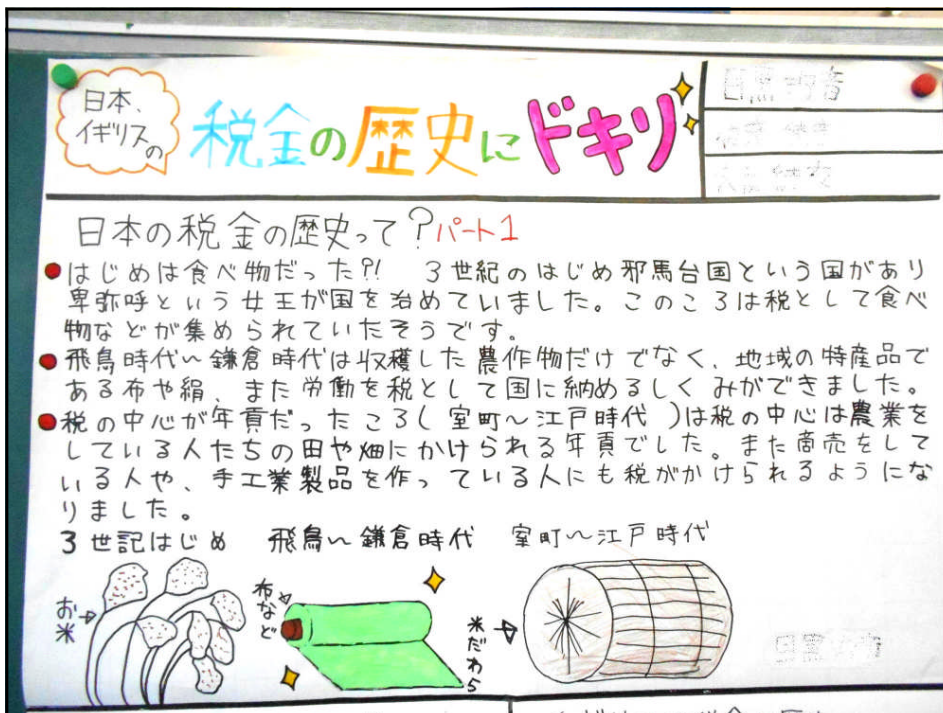


本やインターネットを活用した調べ学習の様子

(2) グループごとに壁新聞を作る。

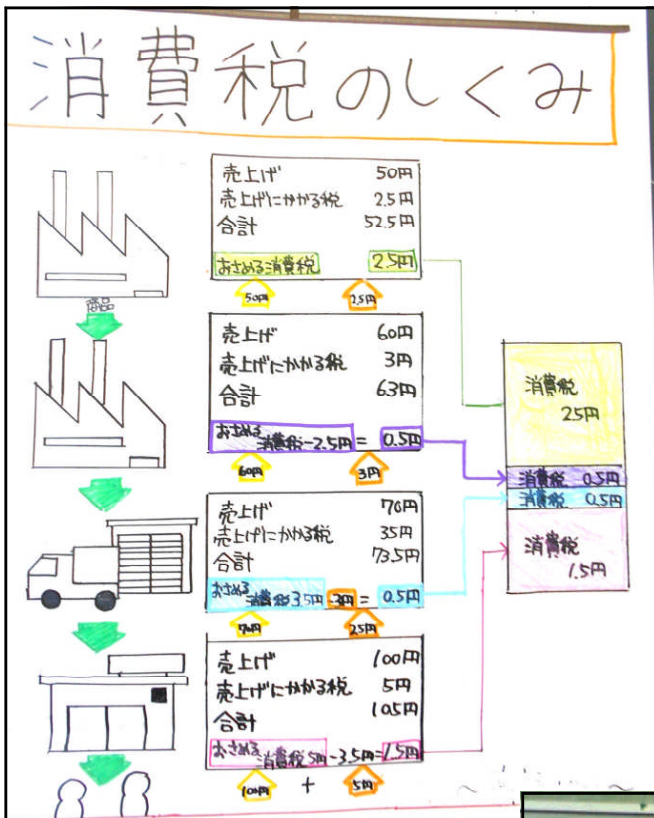


壁新聞を書いている様子



完成した壁新聞①

「税金の歴史」



完成した壁新聞②

「消費税」

完成した壁新聞③

「所得税」

所得税新聞

所得税を払う人について (結月)

所得税を払っている人は個人です。法人税みたいに会社の利益ではなく、商売をしている人が働いて得たお金から自分の税金の額を計算して納めます。また、会社などで働いている人は、給料から税金が差し引かれます。そして、亡くなったりも死亡した年について、税金があれば、所得税がかかります。次に所得税のかかる人について、紹介いたします。所得税は、原則としては個人に対して課せられ、日本国内に居住する形態の違いにより、居住者、非居住者、非居住者に区分して、それぞれ課税される所得の範囲が定められています。また、法人にも課せられる場合があります。

豆知識～源泉徴収とは～
給料や利子など、特定の所得について支払いの際に支払われる金額から所得税を差し引いて納付する制度です。

所得税の税率計算方法!

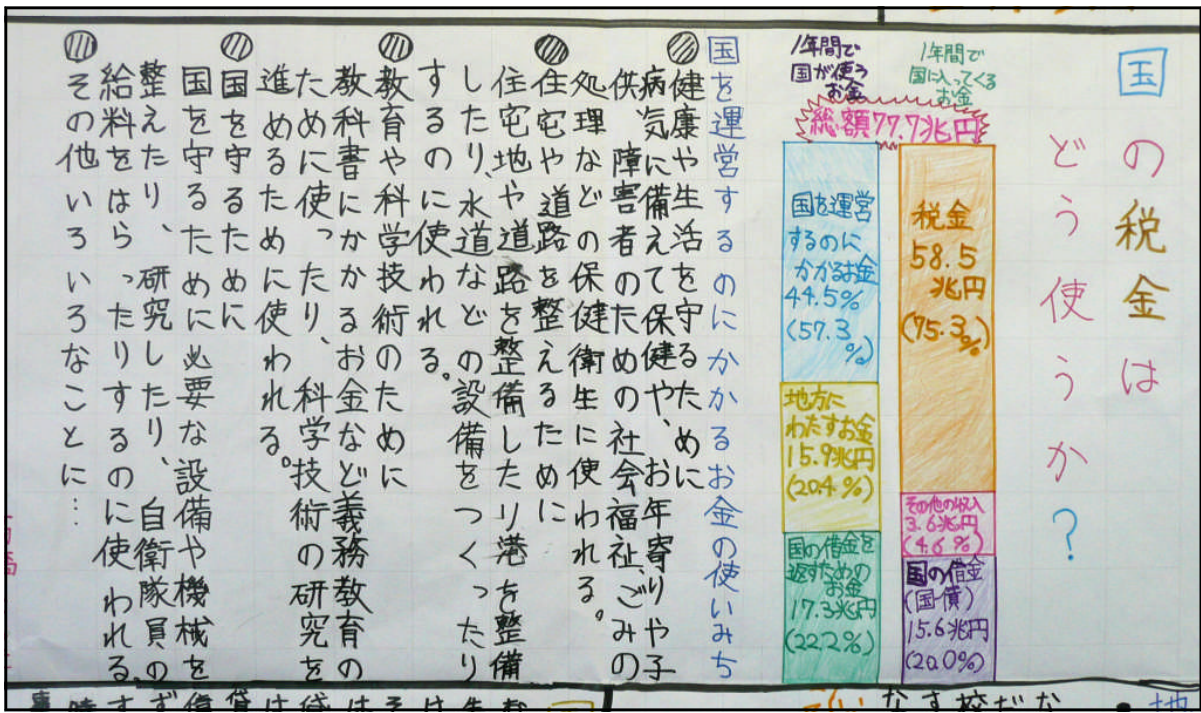
所得税は、個人の所得に対してかかる税金です。現在10種類に分類されています。例えば、株式など、配当所得、貸付収入は、不動産所得、給料賞与所得などです。

ココが所得税の秘密

所得があっても、その性質からして、所得税の課税の対象とならない(非課税となるもの)もあります。まず、給与所得者の通勤手当の一定金額や生活必需品の譲渡収入、健康保険の保険料、失業給付、損害保険の賠償金、損害や、中絶的、事故によるものは、非課税となります。

所得とは何か?

所得とは何か? 所得に対する税金。当たり前だろう?と思ってる人もそうですが、ここで確認しなければいけないのは、所得とは何かという事です。所得税法では、以下の7項目における収入のことを所得としています。1、利子所得: 貯金や社債などの利子にかかる所得。2、配当所得: 株や投資信託などの配当にかかる所得。3、不動産所得: 土地やマンションの賃料など不動産活用による所得。4、事業所得: 事業活動の結果得た所得。5、給与所得: 給与、ボーナス(賞与)の所得。6、退職金所得: 退職時の退職金や厚生年金の一時金などの所得。7、山林所得: 山の木を伐採して得た所得や山の老木による所得などがあります。ちなみに、毎月の給料だけに所得税がかかるのでは無いのです。



完成した壁新聞④
「税金の使い道」

法人税とは何?

法人税は会社の人か利益から税金の額を計算して納めます。
そして、法人税は国税の直接税です。

会社が赤字のとき、法人税は、納めません。
所得額が赤字になった、つまり
欠損金が出たら法人税はかかりません。

法人税の分類と主な法人

公共法人	地方公共団体、日本放送協会
公益法人	財団法人、NPO法人など
協合組	農業協同組合、漁業協同組合など
普通法人	株式会社、合名会社、合資会社など
人格のない社団	学校のPTA、学会、同窓会など

完成した壁新聞⑤
「税金の種類」

【第3次】税金討論会「どの国が一番住みやすいか？」

下のワークシートを使い、所得税について考え、意見を交流する場を設けることで、これまで学習した税についての知識を深めることができた。

税金討論会

名前 ()

テーマ

あなたは次のうち、どの国が一番住みやすいと思いますか？
(税収入もあり、税金を支払う人が公平感を感じる)

[所得税] 会社員の給料や商売のもうけなど、収入があった人が支払う税金

【A国】 <現在の日本>

収入が多くなると所得税の割合(税率)も増える

1年間に 200万円収入があった人は所得税 20万円を払う (税率10%)

1年間に2000万円収入があった人は所得税800万円を払う (税率40%)

消費税は8% (1000円の物を買うと1080円支払う)

【B国】

1年間に収入があった人は全員、所得税として収入の20%を支払う (税率20%)

1年間に 200万円収入があった人は所得税 40万円を払う (税率20%)

1年間に2000万円収入があった人は所得税400万円を払う (税率20%)

消費税は8% (1000円の物を買うと1080円支払う)

【C国】

1年間に200万円以上収入があった人は全員、所得税50万円を払う (定額)

1年間に 200万円収入があった人は所得税 50万円を払う (税率25%)

1年間に2000万円収入があった人は所得税 50万円を払う (税率2.5%)

消費税は8% (1000円の物を買うと1080円支払う)

【D国】

所得税は無税だが、消費税を50%支払う

1000円の物を買うと1500円支払う (物の値段が1.5倍)

18名 / 32名中

【A国】 <現在の日本>

収入が多くなると所得税の割合(税率)も増える

1年間に 200万円収入があった人は所得税 20万円を払う (税率10%)
1年間に2000万円収入があった人は所得税800万円を払う (税率40%)

消費税は8% (1000円の物を買うと1080円支払う)

◎今の生活が一番だから、この仕組みでよい。

◎200万円収入がある人は、税率が低く暮らしやすい。

●仕事を頑張ってたくさん収入がある人の税率が高く、たくさん税金を払わなくていけないのはおかしい。

10名 / 32名中

【B国】

1年間に収入があった人は全員、所得税として収入の20%を支払う (税率20%)

1年間に 200万円収入があった人は所得税 40万円を払う (税率20%)
1年間に2000万円収入があった人は所得税400万円を払う (税率20%)

消費税は8% (1000円の物を買うと1080円支払う)

◎収入があった人全員が支払うのは公平である。

◎2000万円収入がある人にとって、税率20%は安い。

●収入が少ない人がかわいそう。

◎収入が増えても、定率なのはよい。

●200万円収入がある人の税率が高い。

4名 / 32名中

【C国】

1年間に200万円以上収入があった人は全員、所得税50万円を払う（定額）

1年間に200万円収入があった人は所得税50万円を払う（税率25%）

1年間に2000万円収入があった人は所得税50万円を払う（税率2.5%）

消費税は8%（1000円の物を買うと1080円支払う）

◎仕事を頑張って収入が多い人は、税率が下がる。

◎お金持ちだけの国になる。

●2000万円収入がないと税率が高すぎる。

●お金持ちでない人はかわいそう。

●1円違いで払わない人と払う人がいる。

0名 / 32名中

【D国】

所得税は無税だが、消費税を50%支払う

1000円の物を買うと1500円支払う（物の値段が1.5倍）

●物が売れない

●物を買わないで、自給自足の人が増える。



税金討論会の様子

「税金について考えよう」の学習を振り返って

○児童の感想から

税金はいろいろなところで使われていることが分かりました。国によって税金の使い道が違うことも分かりました。

税金は私たち国民にとってとても大切だということが分かった。税金にはいろいろな種類があることも分かった。

これから消費税が高くなるようなので、本当に必要か考えて買いたい。

日本では、収入が多くなると所得税の割合が増えることが分かりました。

税金をいらないなどと思わず、税金は大切な物と思いたい。

消費税を払う時に嫌々払わないで、当たり前のように払いたい。

7 研究の成果と課題

(1) 成果

- ・租税に関する知識が深まり、普段の生活の中で税金で支払われているものについて、「大切にしなければならぬ」「節約しなければならぬ」という意識が高くなった。
- ・税の仕組みや国予算について学習していく中で、政治に関する関心が高くなり、これから学習する社会科「私たちの生活と政治」の意欲付けとなった。
- ・「税金がなくなったら、どんな生活になるのか」を考えさせることで、納税の義務の意識が非常に高くなった。
- ・租税教室で税理士の方から専門的な話を聞き、税の大切さを改めて感じる事ができた。
- ・「税金討論会」を開き、累進課税について、児童一人一人が考えを持つことができた。また、その考えを発表し意見の交流をすることで、日本の所得税の仕組みである「累進課税」の長所について理解を深めることができた。

(2) 課題

- ・税金の使い道について、「国の予算」を主に考えさせたが、「県や市の予算」にも目を向けさせれば更に、税金を身近なものに感じる事ができたと思う。
- ・税金について調べていく過程で、専門用語が出てきたときに教師もある程度租税に関する知識がないと対応できない場面があった。
- ・税金の種類や税率など、社会情勢や政治の状況で参考資料と異なっているときがあり、多少混乱していた児童がいた。
- ・調べる手段として、本とインターネットが中心であり、関係書籍の充実やインターネット検索のスキルなども必要であった。